

役場の広報・説明は賛成・反対にたいして 公平・中立であるべきだ

太郎 住民投票が6月13日に決まって、各地区で説明会も開かれているね。あと、1ヶ月足らずだね。

良夫 だけど、「太良はもう合併することに決まっている」とか「合併するかどうかは議会で決めるのだから住民投票にいても意味はない」などと、住民投票を妨害するようなことを言っている人がいると聞くよ。真に受けて、投票に行かなかったら、開票できなくなる。

住民投票・合併がまだ決まっていなことの証拠

太郎 住民投票が実施されることが、太良が合併するかどうかがまだ決まっていなことの何よりの証拠じゃないか。町も、住民投票への参加を呼びかける横断幕やのぼりなどをだした。百武町長は投票を成立させるために全力をあげると言っていたよ。

良夫 だけど、役場の広報などを見て、役場は合併の方に傾いているんじゃないかと言っている人もいるよ。その点はどうなんだろう。

お願い
ビラ発行を続けるため、資金カンパにご協力下さい。
宣伝カー（軽自動車）の運転にご協力下さい。

行政は合併の賛否にたいして中立の立場

百武町長が地区説明会で明言

太郎 住民投票は、太良町の合併問題について、賛成であるか反対であるかという町民の意志を確認するために行われるものだ。そのために、住民投票条例は、「町長は、太良町の合併問題について、町民が意志を明確にするのに必要な情報の提供に努めなければならない」「町長は、住民投票の結果を尊重しなければならない」と定めている。

良夫 ということは、町は「合併賛成」「合併反対」にたいして、公平・中立でなければならない

ということだね。どちらになるかは、住民投票の結果だということだ。

太郎 その通りだよ。百武町長も地区の説明会で「行政はニュートラル（中立）の立場」というていた。（伊福公民館、北町公民館など）だから、役場の広報・宣伝物などで、すでに太良町が合併することに決まっているかのような、あるいは合併の方向をとっているかのような誤解を町民に与えるものはなくすべきだ。このことを、百武町長に申し入れた。

良夫 そうすると、役場の広報やチラシなどで合併推進を宣伝するのは、役場の中立性に反するということだね。役場の正面にかけてある横断幕も「あなたの一票でまると太良町の将来。住民投票に必ず出かけましょう」というような内容に改めねばならないね。

説明会では合併推進にかたよらず、公平な説明を

太郎 今開かれている、各地区の説明会でも「合併賛成」と「合併反対」という二つの選択肢が公平・平等にあつかわれるべきだ。

良夫 合併推進協議会が開いた説明会では、桑原鹿島市長を先頭に合併推進一色だったよ。

太郎 太良町が主催する説明会は、合併協議会の説明会とは違う。住民投票条例と「合併の是非は住民投票の結果による」という町長公約に忠実に沿ったものでなければならないよ。

良夫 だけど、役場の課長さんの説明は「だから、合併しなければダメだ」と聞こえたよ。

太郎 あの説明の仕方は、百武町長の言葉と食い違っている。百武町長もいっているように「大変だけど、我慢すればやっていけないことはない。太良町を残すこんな手だてがある」という一つの例として説明すべきだよ。説明会での説明の改善についても、百武町長に申し入れた。

合併反対・太良町を残そう

No.23 2004.5.18

発行 合併反対・太良町を残す町民協議会

連絡先 北町 川上賢二 Tel 67-9072

ホームページ <http://www2.saganet.ne.jp/ken-1941>

太良町を残せる希望が見えてきた

良夫 各地区での住民説明会が進んでいるね。

太郎 町民のなかでの議論が「どうしたら太良町を残せるか」という議論に進んできたような気がするよ。

「太良町を残してほしい」という町民の願いが出発点

良夫 町民の多くは、「合併したら、太良はさびれてしまうのではないか。太良を残して欲しい」と思っている。これにどう答えるかが、合併問題の議論の出発点だね。

太郎 その通りだ。これに対して、太良町が出した試算は、「辛抱すれば、合併しなくてもやっていけます」という回答だ。合併協議会は「できません。合併しなければダメです」という回答だ。

「太良町を残して欲しい」という町民の願いへの回答	
太良町の財政試算	辛抱すれば、合併しなくてもやっていける
合併協議会の財政シミュレーション	合併しなければやっていけない

良夫 そのどちらを、町民が選ぶかということだね。これは、わかりやすい。

「合併しなければ、町長の給料は3割カットしてもいい」 - 百武町長 辛抱すれば、合併しなくてもやっていける

太郎 私が参加した北町の説明会では、太良町が発表した「財政試算」にいろんな意見が出た。例えば、「これを見たら、合併しなくてもやっていけるという自信を得たよ」「どこをどう削るのか、もっと町民の声を聞くべきだ」という意見だ。

良夫 「いきなり、町民の負担をふやし、いろんな補助も削ると言われると、衝撃が大きい。町は、もっと以前から町民の声を聞きながら、こんなものを作るべきでなかったか」という意見もでたね。大浦では、「大浦支所は絶対に廃止するな」という声大きいね。

太郎 まとめると次の通りになる。第1に、「財政試算」は、太良が合併しなくてもやっていけるということを示しているということだ。第2に、「財政試算」は、太良町を残すためにどんな改革を行うか---そのたたき台になりうるということだ。第3に、どこをどう改革するかは、町民の議論によって決めるということだ。

良夫 百武町長は、「合併しないとなれば、町長の給料は3割カットしてもいい」と言っていたね。伊福の説明会では、「がまんすれば、やっていけないことはない」とも言っていたよ。

太郎 太良は西村元町長、杉崎前町長など先輩の血のにじむような努力で多額の基金を作ってきた。基金のおかげで、水道料も国保税も安い、検診は無料というようによその人がうらやむような行政ができた。これから交付税が減らされて、他市町村なみにせざるをえないところも出てくるが、先輩たちのことを思えば、辛抱できる。

良夫 合併して役場がなくなり、何事も鹿島中心になってしまえば、もっとリスクとマイナスが大きくなる。辛抱して役場を残せば、太良の特色を生かした独自の町づくりができるね。「財政難です。合併しかありません」と言っていたら、先輩から怒られそうだ。

太郎 みんなで議論すれば、「他にもこんなに削るところがある」「これは、ぜひ残しておこう」「こうしたらいい」という意見がいっぱい出てくる。それが大事だ。

合併しなくとも、必要な事業費は確保できる

くずれた「合併しなければ、建設事業はできなくなる」という宣伝

太郎 太良町と鹿島市の「合併しなかった場合の財政試算」のなかの施策可能経費を合計すると約300億円になる。これは、合併した場合とほとんど同額の施策可能経費になる。

良夫 合併協議会の「財政効果350億円」という宣伝はごまかしだということがはっきりしたね。

太郎 合併しなかった場合の太良町の普通会計の施策可能経費は約81億円だ。合併後の「新市まちづくり計画」にあげてある主な建設事業は総額約90億円だが、この中には病院のように特別会計の事業も含まれるから普通会計の事業費はもっと少なくなる。太良で必要な建設事業は合併しなくともほとんどできると言うことだ。

良夫 「合併しなかったら、建設事業や新規の事業ができなくなる」という合併協議会の宣伝も根拠がなくなったね。自信を持って、太良を残せるね。

	鹿島市	太良町	合計	数字の根拠
合併した場合の施策可能経費			310億円	合併協議会の財政シミュレーション
合併しなかった場合の施策可能経費	219億円	81億円	300億円	鹿島市、太良町の「財政試算」
新市まちづくり計画の建設事業費	265億円	90億円	355億円	合併協議会の財政シミュレーション